

街歩き 078 山懐に抱かれた永平寺



山懐に抱かれた永平寺（愛宕観音堂より）



中雀門側から見た山門

永平寺蕎麦とごま豆腐の看板が並ぶ参道



杉木立の奥に佇む唐門

photo 2019.12.25

階段廊下で繋がれた伽藍



～福井県吉田郡永平寺町～

年も押し迫る 12 月 24 日、福井県高等学校教育研究会美術部会主催の研修会に講師としてお招きいただいた。翌日は雪の薄化粧を施された一乗谷、それとも永平寺と思いを巡らせながら…。

期待に反して？この時季には珍しく、雪がないどころか、時雨することも無い晴天に恵まれた。福井駅から特急バスで 30 分。終点に降り立つと蕎麦屋とごま豆腐の看板が目飛び込んできた。

土産物屋や食事処が並ぶ通りを避け、宿坊が並ぶ永平寺川沿いのよく整備された参道を歩くこと数分。杉木立に包まれた唐門が正面に見えてきた。早速カメラを取り出し、ワンショット。真横から射す光が杉木立の深い陰翳をつくり、その奥に佇む唐門の秀麗さを浮き立たせている。

傾斜地に建つため伽藍は長い階段廊下で繋がれている。そのため、明かりを採る窓は平行四辺形（前回訪れた折には見過ごしていた）である。はめられている硝子はやや波を打った透明感の高いもので、今は生産されていない円筒法によるものと推察された。硝子の 1 枚に至るまで大事に使用されてきたことが伺える。雪に備え、ところどころ、透明の波板で覆われているのは残念だが、雪害対策としてはやむを得ぬことだろう。

昼飯にはまだ早いと、道元禅師の「稚髪像」が建つ寂光苑に脚を伸ばすと、途中に「愛宕観音堂 15 分」の立札が目にとまった。折角だからと山道にとりつく。滑りやすいのと冬とは思えぬ気温の上昇で、汗だくになり、15 分は疾うに過ぎて看板に騙されたと愚痴が出そうになるころ、眼下に永平寺の伽藍が…。文字通り山懐に抱かれた永平寺を目の当りにし、その佇まいに心打たれた。（2020.1.1 記）